

○はじめに

昨年度の大学入試における共通テストの内容が大きく変更された。今までのような獲得した知識の再生に関する問題も一問一答のような問題がほとんどなくなり、しっかりと問題を読み取り、何を聞かれているのか把握するとともに適切な表現で回答するような問題が主となった。これは、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」の到来や新型コロナウイルスの感染拡大や南海トラフに係る大地震の予想など先行き不透明な「予測困難な時代」にあって、10年後20年後には社会に巣立ちこれからの日本を支える子どもたちに何を学ばせていく必要があるかを示唆したものと考えられる。令和3年1月に出された中央教育審議会答申によると、「令和の日本型学校教育」の構築をめざしてと題して、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協動的な学びの実現を求めるものとなっている。

そのような情勢を念頭に入れ、本校の子どもたちの実態を適切に見立て、子どもたちが将来安心・安全の中、心豊かに生活していけるよう様々な教育活動を展開して行きたいと考える。

1. 校訓 『 健康 創造 協調 』

2. 学校教育目標

《 安心 》 …… 子どもたちが安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。

《 信頼 》 …… 「子どもたちは地域で育てる」をスローガンに子どもの活躍や課題はもちろんのこと、日常生活についても積極的に情報発信するとともに、地域人材の活用を図ることで地域との垣根を取り除き、地域から信頼される学校をめざす。

《 笑顔 》 …… 子ども同士、子どもと先生、先生同士、さらには保護者も交えたつながりを深めることにより、笑顔がいっぱいの学校づくりをめざす。

3. めざす学校像

以上の目標により、以下のようなめざす学校像を想定する。

◇学校

- ・人権、個性が尊重され、一人ひとりが生き生きと活動できる学校
- ・子どもたちが楽しく学び、確かな学力が身に付く学校
- ・美しく学習環境が整った学校
- ・地域に開かれた学校

◇子ども

- ・つねに人のことを思いやる優しい心を持ち、心のつながりを大切にする子ども
- ・自ら考え判断し、何事にも全力で取り組み、支え合って共に育つ子ども
- ・基本的な生活習慣を身に付けている子ども み・そ・あ・じ
(み：身だしなみ そ：掃除 あ：挨拶 じ：時間を守る)
- ・自分たちが生活している郷土や学校に誇りを持っている子ども

◇教職員

- ・課題を明確に把握し、常に情熱と使命感を持ち、チームを意識した職務遂行に当たる教職員
- ・豊かな人間性と社会性を持ち、互いに協力し、温かみあふれる教職員
- ・危機管理意識の高い教職員

4. 学校経営の基本方針

学校教育目標に基づいためざす学校像を達成するため、以下のことに留意して教育活動を進めていく。

※様々な教育活動(授業や学校行事など)において、常に活動の目的を明確にしつつ、その目的の達成状況についての振り返りを大事にする。

※チーム田原の構築をめざすため、学年主任や部長が中心となりその業務の遂行及び進捗管理に努める。各担当は自分の役割を認識し、その業務を責任もって遂行するとともに同じ学年や部を一つのチームととらえお互いにフォローし合うことを大切にする。

(1) 確かな学力と進路指導の充実

- ・自ら課題を見つけ主体的に取り組むための基礎学力の定着を図る。
- ・GIGA スクール構想に基づき配布されたタブレット PC を十分活用し、個別最適化された学びの充実を図る。
- ・個別最適化された学びが孤立した学びにならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士や他の人との協働的な学びについて調査・研究を深め、実践を進めていく。
- ・小学校からの系統性のあるキャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが夢をもって自分に合った進路選択ができるような進路指導に努める。

(2) 豊かな心の育成と温かい人間関係作り

- ・人間関係作りの第一歩として挨拶の推進に取り組む。(つながり)
- ・様々な出会いを大切にし、様々な価値観や考え方のあることを知ることで、他の人への思いや入りの心の醸成を図る。
- ・道徳教育や人権教育の理念を大切にし、子ども自らがこれからの生き方について、しっかりと考えることができるよう取り組みを進めていく。

(3) 生徒指導の充実

- ・生徒指導は子ども理解からとの考えのもと、日頃からの声掛けや観察を大切にし、問題行動等の適切な未然防止・早期対応に努める。

- ・子ども理解に向け、支援教育について研鑽を積み、これまでの常識にとらわれない理解に努める。
- ・適切な集団作りは、適切な子ども理解があってこそできるのであって、教える側の理想とする集団作りは時により子どもの成長をとめてしまうこともあることに留意する。
- ・生徒会活動や学校行事への積極的な参加を進め、リーダーの育成を図るとともに自主・奉仕・協調の精神を育てる。

(4) 健康管理・安全教育・食育の推進

- ・自らの体力を知り、生涯にわたって運動に親しみ、自ら健康を管理し、改善していく資質や能力を育成する。
- ・安全の大切さを認識させるとともに、自他の生命を尊重し、自ら進んで安全の保持に努める態度を養う。
- ・登下校時や学校生活、自然災害等における危機管理体制を確立し、安心・安全な学校体制の充実を図る。
- ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。

(5) 学校・地域環境の整備

- ・美化意識の高揚と豊かな情操・奉仕の心をはぐくむ。
- ・施設設備や自然環境に対する愛護の精神を高め、公共心をはぐくむ。
- ・教育の場としての施設・設備の整備に努め、学習に適した環境づくりを進める。
- ・自分たちの生活する地域の環境に目を向け、素晴らしい環境を守り、育てる態度を養う。

5. 令和3年度 田原中学校 教育スローガン

絆（つながり）

「認め合い」 「励まし合い」 「学び合い」 で心のつながりを醸成する。

6. 令和3年度 重点項目

(1) チーム田原の構築

→人それぞれ得意・不得意があり、得意なことはチームのために活用し、不得意なことはみんなでカバーしていけるような環境づくりの構築をめざす。あわせて、その業務が膠着しないよう留意することとする。

(2) 子ども理解を中心に据えた生徒指導の推進

→問題行動の裏にあることを注視することを常に意識することを当たり前としていく。(キーワード：なんで・・・?)

(3) これから求められる学力観について研鑽を深める。

→Society5.0に向け、どのような学力が必要であるかを研究し、タブレット PC の

活用やデジタル教科書の利用など ICT 教育について研究を進めていく。

(4) 学力向上に向けた授業改善の取り組みの推進

→学力向上担当を中心に、上記学力観についても念頭に、子どもたちが「わかる、できる」授業づくりを進めるとともに、協働的な学びを意識した授業展開について研究を深めていく。

(5) コミュニティースクールの体制づくり

→令和4年度から実施されるコミュニティースクールに向け、モデル校の取り組みを参考に、田原小学校や地域こども園との連携深めるとともに、地域教育協議会とも協働して、立ち上げの準備を進める。

(6) 働き方改革の推進

→働き方改革の目的について再確認し、さらに業務の精選を図るとともに地域や保護者の協力のもと本来の教師の業務の充実をより一層進めていく。

